

# まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする  
まちの情報発信基地

## 1. まちの駅ネットワークかめまが3地域のまちの駅と「姉妹締結」

栃木県鹿沼市は、総務省「関係人口創出・拡大事業」の採択を受け、姉妹まちの駅プロジェクトを実施しました。まちの駅どうしが自発的・持続的なつながりを持つことで、関係人口として相互のまちづくり活動を応援していこうという趣旨です。令和元年11月18日に3地域のまちの駅ネットワークの代表が鹿沼市に集い、佐藤信鹿沼市長の立ち合いのもと、「まちの駅新・鹿沼宿」で姉妹締結の調印式を行いました。

●あらかわ区まちの駅ネットワーク…東京都荒川区とは東武鉄道でつながっています。松尾芭蕉の奥の細道への旅立ちの地ですが、芭蕉は鹿沼にも立ち寄り、文化や歴史を共有しています。

●まちの駅ネットワーク焼津…静岡県焼津市はマグロやカツオ、桜えびなど水産資源が豊富。山のまちと海のまちの交流を進めます。

●会津まちの駅ネットワーク…鶴ヶ城をはじめとした歴史観光のまち会津若松市を中心とした会津地域とは、東武線特急リバティでつながっており、沿線上の観光連携の強化を図ります。

関係人口では、人と人との関係が最も重要です。まちの駅は「見えない線路でつながっている」と言ってきましたが、姉妹締結という「見える化」をすることで、まちの駅どうして親戚付き合いを積み上げていこうというものです。お互いの地域をよく知り、「ないもの」は補完し合い、「あるもの」は連携強化をしていくことで、WIN&WINの関係づくりを目指します。早速鹿沼市では、まちの駅パンフレットやポータルサイトなどで3地域を紹介したり、「まちの駅新・鹿沼宿」内に姉妹まちの駅紹介の展示を行っています。どうぞ注目ください。



## 2. まちの駅オール新潟交流会

11月14日、新潟県長岡市で「オール新潟まちの駅交流会」が開催されました。会場となった「アオーレ長岡」



に、新潟県内のまちの駅仲間が50人ほど集まり、企画・準備・運営を長岡大学鯉江ゼミの学生が担いました。学生による県内まちの駅ヒアリング調査報告では、若者にとってまちの駅は「敷居がとても高い」という指摘。「まちの駅の活用促進」をテーマにしたグループワークでは、「認知度の低さ」や「お客でないので入りにくい」という現状認識の中、「憩いのスペースを作る」、「店先にオープンテラスを作る」、「ファンや応援団を作ってちょくちょく来てもらう」、「幟や看板を見やすくする」、「小学校と連携して、子どもたちの下校途中の休憩場所として活用」などのアイデアが出ました。また、まちの駅は業種・業態が様々なので、それぞれの事業体ごとに戦略を考える必要だという意見もありました。後半は、新潟の美味しい日本酒をいただきながら、自由懇談をしました。若者の感性と遠慮のない意見交換に、いろいろと気づきの多い交流会になりました。

## 3. 田原本町に「まちの駅たわらもと」が誕生しました

奈良県初のまちの駅が、田原本町に誕生しました。認定されたのは、キーステーションとして「まちの駅たわらもと 青垣生涯学習センター」、サテライトステーションとして「まちの駅磯城の里」の2ヶ所です。田原本町は奈良盆地の中央に位置する人口約31000人の町です。歴史も古く、古墳や古道、神社、仏閣などの歴史的資源が豊富です。古墳弥生時代の唐古・鍵遺跡が遺されており、道を挟んで「道の駅レティ 唐古・鍵」が車利用者のための施設として整備されています。そこで、歴史&健康ウォーキングの拠点として、まちの駅を活用してもらいたいという趣旨です。「まちの駅たわらもと」には、町立図書館と唐古・鍵考古学ミュージアムが併設されています。ウィキペディアタウンのような歴史探訪&地域学習のウォーキングイベントも楽しめそうですね。



## ■ 良いとこどり情報～まちづくりの参考事例

### 1)本を介した地域活動

活字離れや読書離れと言われて久しい。まちの本屋さんも、どんどん減っています。とはいえ、本には人々を引き寄せる力があります。本を揃えて場所を開放することで、人々の集いや賑わいを作っている事例は少なくありません。読書用に本を置いている「まちの駅」もあります。本をテーマにしたまちづくり実践例を紹介します。

#### ① まちライブラリー

『まちライブラリー』は、いろいろなスペースに「みんなの本棚」を作ろうという運動で、磯井純充さんが提唱・推進しています。みんなで本を持ち寄って貸し合うことによる地域の「たまり場」づくり活動として2011年から始まり、年々増え続けて現在の設置登録数は770ヶ所。登録申請は無料で、スペースの制約も一切ないので、誰でも気軽に組み立てる仕組みとなっています。設置場所はカフェやショップ、オフィスや住宅、お寺や病院など多種多様。9割が民間施設、1割が公共施設内に設置され、街角にある小さなBOX型から数万冊所蔵の開架書庫まで、冊数も形態もさまざまです。各本の巻末に記入欄のあるしおりが挟んであり、それに読後感想などを自由に書き込むことが出来るので、読者同士のコミュニケーションの輪が生まれる仕掛けになっています。

磯井さんによれば、現在の私設図書館数は『まちライブラリー』に登録していないものも含め3000ヶ所程度。これを10000ヶ所にすることで、まちの本屋がなくなる問題にも対応でき、社会的なインフラにもなるとのこと。本を介して、イベントを仕掛けなくても人々が集う場が出来、その中から、自発的に利用者同士がミニイベントを企画・開催している事例も出ているそうです。詳細は、<http://machi-library.org/>

#### ② NPO 法人情報ステーションの『民間図書館』

NPO 法人情報ステーションが運営する『民間図書館』は、施設の空きスペースに本棚を置いて、読書やコミュニケーションを図る地域密着型の貸本システムです。2006年にスタートして、千葉県船橋市を中心に千葉県内、東京や埼玉などの関東圏、さらには関西や九州沖縄にも展開しており、これまでの総設置数は99ヶ所。設置スペースは、マンション、オフィス、高齢者福祉施設、店舗、空き店舗、ショッピングセンターなど（写真はワイン屋内の民間図書館）。高齢者施設内の民間図書館では、施設利用者だけではなく、近隣の小学生や幼稚園関係者も借りに来ており、新たなコミュニケーションが生まれているそうです。また、食事やおしゃべりが自由にできる民間図書館も多数あります。

管理システムは、本棚と一緒にパソコンを置いて、リーダーでバーコードを読み取って貸し借りが出来るセルフサービスになっています。NPO 法人情報ステーションが本のレンタルをしており、毎月5～10%の入れ替えをしてくれます。貸し出しの傾向をパソコンで分析して、人気のジャンルを選んで交換しています。利用者はパソコンで予約や検索も可能です。レンタル料金は規模にもよりますが、300冊で月額1万円程度とのこと。詳細は、<https://www.infosta.org/about/>



#### ③ 無人古本屋

「野菜の無人販売」はよく見かけますが、『無人古本屋』はご存じでしょうか。東京都武蔵野市の三谷通り商店街の一角に無人古本屋“BOOK ROAD”がオープンしたのは2012年4月のこと。24時間営業で、店員がいないため購入はガチャガチャで会計します。本の精算は300円と500円のガチャガチャで支払い、出てくるカプセルの中に持ち帰り用のレジ袋が入っています。盗難が心配になりますが、オーナーの中西功さんによれば、現在まで被害はゼロとのこと。ノートを置くことで利用者の感想や注文を伺うことが出来、要望にも応えています。さらに、ベンチ兼用に木箱を置いたところ、その中に本の寄贈やプレゼントが入っていたりして、会ったことのない人とのコミュニケーションを楽しんでいるそうです。同じシステムを使って、宮崎県日南市、高知市、横浜市、北海道帯広市にも無人の古本屋が開店しています。（右の写真は横浜の白楽駅前の商店街にあるBooks Casket）

中西さんは、さらに吉祥寺に“ブックマンション”を開設し、「レンタル本棚」を使った共同古本屋の経営も始めました。本棚の利用料は月額3850円、1冊売れるごとに100円をお店に支払うシステムで、本棚を借りて共同オーナーになり、交代で店番をしています。

BOOK ROADの詳細は、<https://www.facebook.com/pg/bookroad.mujiin/posts/>



## 2)地域をよく知るまち歩きイベント

### ④ ご当地ソーシャルマラソン(シャルソン)

“シャルソン”とは、SNSを活用しながらまち巡りを楽しむマラソンイベントです。ご当地シャルソン協会会長の佐谷恭さんが発案したもので、ゴール時間だけを決めて、参加ランナーは自由に街中を移動（走らなくても、徒歩や自転車、公共交通の使用も可）し、ゴールを目指します。給水ポイントの代わりに“給〇ポイント”を街なかに数ヶ所設置し、ランナーはそこに自由に立ち寄ってサービスを受けながら、コースの途中で見た風景や発見したものを写真や動画に撮り、SNSで発信し合います。主催者は大会用のユニフォーム（Tシャツ）を作り、ランナー全員がそれを着て走り（歩き）ますので、街中で出会うとお互いに参加者だと分かり、挨拶や情報交換ということになります。ゴール後の表彰式（懇親会）では各ランナーのSNSや撮った写真を見ながら、それぞれの体験・発見をシェアします。もちろん、飲食も楽しみながら。2017年、2018年に東京都荒川区でも実施され、あらかわ区まちの駅ネットワークメンバーもトイレ休憩所や“給〇ポイント”として協力しました。



### ⑤ ウィキペディアタウン

“ウィキペディアタウン”は、まち歩きをして地域情報を集め、それをもとに文献を調べてインターネット百科事典「ウィキペディア」に記事をアップするというイベントです。ウィキペディアへの掲載記事を作成するという知的活動を伴い、実際に作成した記事がWEB上で確認できるので、参加者の達成感が高まります。また、当該地域の情報を世界中に公開することになるので、地域のPR活動としての効果も期待できます。

そもそもは2012年にイギリスのモンマスという小さな町で始まった活動で、日本では2013年に「国際ナショナル・オープン・データ・デイ横浜」として初めて開催され、それから各地で実施されるようになりました。国内での開催予定は「プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン」で知ることが出来ます。

ウィキペディアは出典を記載するというルールのため、文献を調べて確認する必要があるため、図書館を活用した地域活動としても注目されています。まちの駅全国大会のエクスカージョンで企画してもいいかもしれませんね。

## 3)コミュニティ通貨の試み

### ⑥ 共感コミュニティ通貨 eumo(ユーモ)の実証実験

「お金とは人が幸せになるための手段のはずなのに、現状の人がお金に縛られている社会はどこか間違っている」。そうした疑問から、新井和宏氏は「共感資本社会」を提唱し、2019年9月から共感コミュニティ通貨 eumo(ユーモ)による実証実験を実施しました。お金に縛られないために「貯めることができない期限付きのお金」、「関係性がないと使えないお金」を作り、それを使うことで人が幸せになれるかどうかを検証しようという社会実験です。

eumoの実験は、2019年9月15日から2020年2月29日まで行われ、1000人以上が参加しました。実験参加者はスマホを使ってユーザー登録し、1eumo=1円でチャージして、共感加盟店でのみ使用可能。eumoが使える加盟店は北海道から沖縄までの23ヶ所限定、みんなが応援したくなるようなこだわりの農園や造り酒屋、鋳物メーカーなどです。通信販売は認められず、現地まで足を運ばないと購入できません。わざわざ遠くから来てくれたのだからと生産者やお店側も歓待してくれて、滞在時間も長くなり、人間関係の構築もみられたそうです。事後アンケートでは、86%の実験参加者が「素晴らしい出会いを経験した」と回答しています。ちなみにeumoという名称は「持続的幸福」を意味するギリシャ語 Eudaimonia(ユーダイモニア)から名付けたそうです。

現在、本番実装の準備が進められており、6月下旬に「eumo Life」と「eumo Local」をスタートさせ、続いて「eumo Journey」を9月にリリースする予定です。「eumo Life」は飲食や買い物など日常生活での利用を対象にしたものです。「eumo Local」はエリアやコミュニティを限定して利用するもので、ふるさと納税や企業等の寄付で利活用することも視野に入れています。「eumo Journey」は、地方での出会いを作るための体験型旅行商品です。現在、共感加盟店を募集中とのこと。eumoの取り組みは、まちの駅とも価値観の共通部分が少なくないと思います。連携の可能性も視野に入れ、注目していきましょう。



プリペイドカードからもチャージが可能

詳細は、株式会社 eumo <https://eumo.co.jp/>でご確認ください。

## 4. 東京都江戸川区パルプラザで恒例のまちの駅物産市を開催

令和元年 11 月 30 日、東京都江戸川区のパルプラザ SC の中庭で恒例の「まちの駅物産市」を開催しました。昨年好評の由比まちの駅から蒲鉾、黒はんぺん、サクラエビ揚げ、焼津まちの駅からカツオやマグロの佃煮、おでんカレー、岩手花巻からはお餅、すいとん、等々。その他あらかわ区まちの駅の吉友安世さんによるタイコーヒーの青空喫茶。お楽しみイベントは戦豆の猿回し。今年も好天に恵まれ、楽しい一日になりました。



## 5. 2020 年のまちの駅全国大会は、新型コロナウイルス対応のため中止します

本年 8 月に開催を予定しました「第 23 回まちの駅全国大会 in みつけ」は、新型コロナウイルスの感染防止のために中止と致しました。年度内延期の可能性も検討しましたが、終息の予測がつかないため、2021 年度への延期とします。残念ですが、仕方ありませんね。皆様も、くれぐれもご用心の上、ご安全に。

## 6. まちの駅と「おてつたび」とのコラボ企画

「おてつたび」とは、お手伝い+旅行の造語で、「地域の困った」を手助けすることを目的に、親戚が帰省する感覚で地域に滞在し、お手伝いと地域の暮らしを体験する新しい旅行プログラムです。これまで知らなかった地域で汗を流し、土地の人と交流することで人間関係が生まれ、リピート率は 60%以上の実績をあげています。地域のために何か貢献したいと思っている若者はとても多くなっているようです。



そこで、まちの駅と「おてつたび」のコラボレーションを企画したいと思います。おてつたび希望者を受け入れてくれるまちの駅があれば、仲人役は「まちの駅本部事務局」が務めます。

様々な業種で起こっている人手不足にも、「おてつたび」のマッチングシステムは役に立ちます。若者に短期滞在してもらい、最も忙しい時間帯に仕事をしてもらい、残りの時間は地域を楽しんでもらい、住民と知り合ってもらうことで、人手不足を補いつつ、地域のファンになってもらいましょう。

また、東京には帰省する田舎を持たない若者が増えています。そこで、「第二のふるさと」を提供してはいかがでしょうか。長年積み重ねてきたその土地の暮らしそのものが、地域資源としてよそ者には新鮮に映るものです。

## 新規まちの駅のご紹介 (令和元年 10 月から令和 2 年 3 月までの加盟駅)

都道府県	市町村	まちの駅名
秋田県	由利本荘市	まちの駅山河
福島県	会津若松市	会津飯盛山 忠魂の駅
茨城県	水戸市	多世代交流の駅
栃木県	鹿沼市	ハートフルな駅
	鹿沼市	絆を繋ぐ駅
	鹿沼市	山里なのに魚が旨い駅
埼玉県	本庄市	華麗(カレー)なる駅
	本庄市	また一つ「おいしい物語」に出会える駅
新潟県	見附市	あかりの駅
	見附市	クラフトビールの駅

都道府県	市町村	まちの駅名
新潟県	見附市	ほんのちよっとワクワクステーション
	見附市	まちの駅レアント
奈良県	田原本町	まちの駅たわらもと 青垣生涯学習センター
	田原本町	まちの駅磯城の里
広島県	廿日市市	オタクの駅
	廿日市市	めだかの駅
福岡県	福岡市	スポーツを楽しむすべてのひとへの駅
	福岡市	着物ライフ応援の駅
鹿児島県	粕屋町	YORIMICHI の駅
	鹿児島市	鹿籠豚の駅

### 編集後記

令和時代の幕開けは、新型コロナウイルスとの闘いという思いもしない事態となりました。東京オリパラは延期になり、まちの駅全国大会も開催を見合わせる事となりました。新コロは人から人へ感染するため、とにかく外出を控え、人との接触を避けることが求められます。「まちの駅に寄ってね」といえる状況ではなく、しばらくは辛抱が続きそうです。こういう時こそ、全国にいる“まちの駅仲間”で連絡を取り合って、元気の交換をしたいものですね。「すべては人と人との交流から始まる」というのが、まちの駅の原点ですから。(は)

全国まちの駅連絡協議会事務局(NPO 地域交流センター) 電話 03-5823-4190 FAX03-5823-4191